

「日々の理科」(第 3024 号) 2022, 11, 17

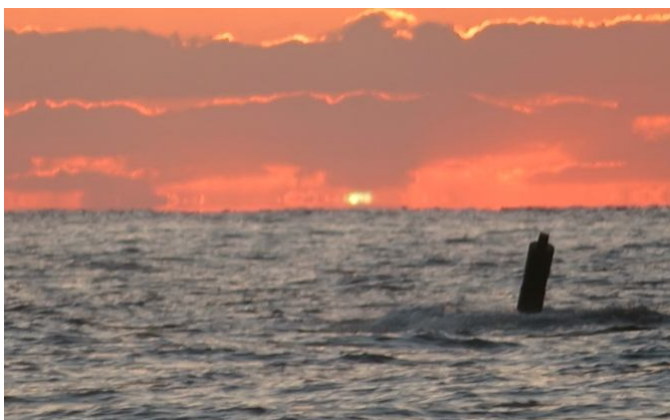
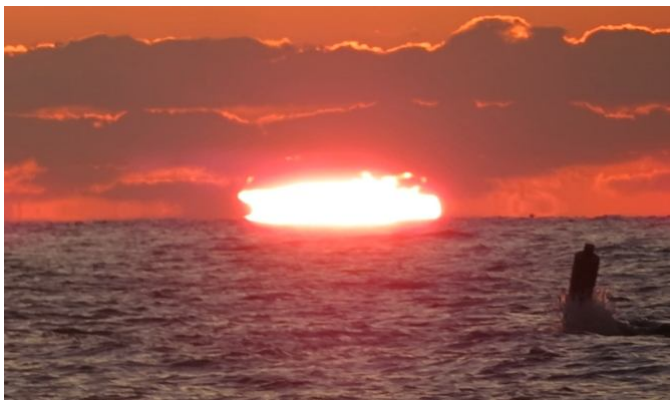
「秋の東北鉄道旅行 (最終回)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

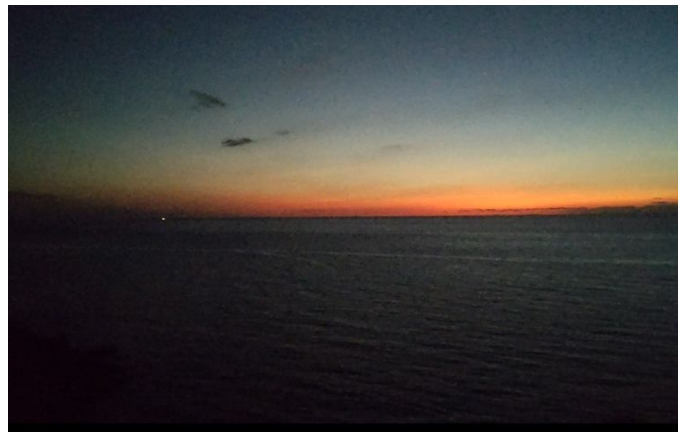
どんな旅行 (或いは人生そのもの) にも「クライマックス」というものがあるような気がする。今回の旅行では、象潟海岸で見た、日本海に沈む夕陽だったような気がする。最期の光芒が水平線に消える一瞬は、実に劇的で、脳裏に焼き付く光景だった。



夕陽を見たあと、新潟行の最終の特急の発車時刻まであまりない。私は、すでに暗くなった道を象潟駅に急いだ。少し空腹を感じていたが、やっている食堂もないし、あっても食事をする時間はなかった。



新潟行の最終の特急「いなほ号」は定刻に象潟駅に到着した。これも初めて乗る特急車両である。



象潟を出た羽越本線の特急は、右車窓に日本海を見ながら進んだ。すっかり暮れた海に、どこかの灯台の明かりが遠くに見えた。



新潟駅にも定刻に到着した。この駅は在来線ホームと新幹線ホームが隣り合わせになっていて、自動改札を通ると、そのまま乗り換えができる。1~2分で乗り換えが可能で、画期的なシステムだと思った。

今回の旅行では、在来線 4 列車、新幹線 5 列車の合計 1643km も乗車したが、すべての列車が 1 分の遅れもなく、時刻表通りに旅行できた。海外の鉄道では遅れは「当たり前」で、時刻表通りに乗り換え・旅行するのは難しい。今更ながら、日本の鉄道の優秀さ、ダイヤの正確さ、鉄道員の勤勉さを強く実感できた。